

DNP

株主通信

DNP Report Vol.76

(証券コード：7912)

第120期 第2四半期決算のご報告

平成25年4月1日～平成25年9月30日





株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日～9月30日)のわが国の経済環境は、一連の経済政策の効果により、個人消費の増加や企業収益の改善などの明るい兆しが見られましたが、新興国をはじめとした海外経済の減速などの懸念材料もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

そのなかで私たちは、国内外で事業構造改革やコスト構造改革を進めるとともに、生活者の視点に立った新たな事業の開発など、成長に向けた取り組みを推進しています。

●**情報コミュニケーション部門**では、情報の最適な表現と多様なメディアへの展開に取り組み、顧客の業務プロセスに密着した幅広いソリューションを提供しています。

この12月にはDNP柏データセンターが稼働を開始します。ここには、DNPの提携先である日本ユニシス株式会社のクラウド技術・ノウハウを導入し、高い情報セキュリティを備えた情報通信ビジネスの最新鋭の拠点として活用していきます。

なかでも、企業の業務プロセスを代行するBPO(Business Process Outsourcing)事業については、

金融関係の事務センターやカスタマーセンター、キャンペーン事務局の運営など顧客の課題を解決するソリューションのひとつとして、注力していきます。

●**生活・産業部門**ではグローバル展開を積極的に推進していきます。まず、アジア地域での包装事業の拡大を重点施策のひとつにしています。DNPは1972年からインドネシアでパッケージを提供しており、日用品や食品などの多くの分野でトップシェアを獲得しています。この実績を強みとし、今年5月には高い経済成長が続くベトナムで包装の工場を開設しました。インドシナ半島の物流拠点としても注目されるベトナムに生産拠点を構えることにより、海外進出する日系企業をはじめ、グローバル企業に付加価値の高い製品とサービスを提供していきます。

情報記録材分野では、東南アジアにおいて証明写真や観光写真のプリントニーズが高まっています。そこでこの10月にフォトプリント用昇華型熱転写記録材のマレーシア工場をスタートさせ、需要の増加に対応する体制を整備しました。また、北米・中南米での使用量が全世界の40%を超えるバーコード市場の伸びに対応して、今年5月、米国ピッツバーグ工場においてもバーコード用溶融型熱転写記録材の製造設備を増設し、生産体制を強化しました。

●**エレクトロニクス部門**では、2011年から2012年にかけて、液晶ディスプレイの世界的な需要の伸び悩みにより、パネルメーカー各社の戦略が大きく転換されるなど、厳しい経営環境が続きました。この状況に対処するため、昨年8月に堺工場における液晶カラーフィルター事業を譲渡し、中小型品へ生産をシフトするとともに、タッチパネルセンサーなどの新製品のシェア拡大に取り組みました。また、生産拠点の集約や組織体制の見直しにより収益性の改善に努めました。

これらの取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は7,096億円(前年同期比1.5%減)、連結営業利益は240億円(前年同期比106.7%増)、連結経常利益は270億円(前年同期比84.1%増)、連結四半期純利益は148億円(前年同期は3億円の純利益)となりました。

なお、当期の中間配当金は、11月7日開催の取締役会において、1株につき16円とさせていただきます。

私たちDNPは、皆様に信頼いただけるよう、事業活動を通じて企業価値を高めていきます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

北島義俊

第2四半期決算のご報告 (平成25年4月1日から平成25年9月30日)

連結業績

当期 (平成25年 4月1日から平成25年9月30日)
前期 (平成24年 4月1日から平成24年9月30日)

(単位:億円)

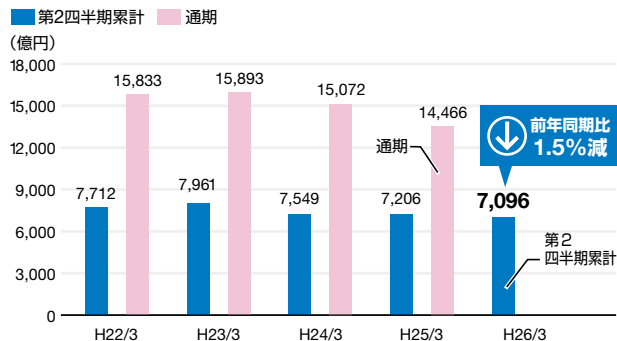
科目	当期	前期	増減
売上高	7,096	7,206	1.5%減
営業利益	240	116	106.7%増
経常利益	270	146	84.1%増
四半期純利益	148	3	—

連結業績の予想 (平成26年3月期通期)

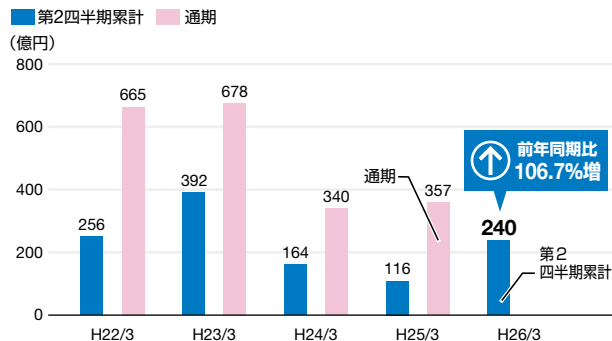
(単位:億円)

売上高	15,300
営業利益	480
経常利益	490
当期純利益	230

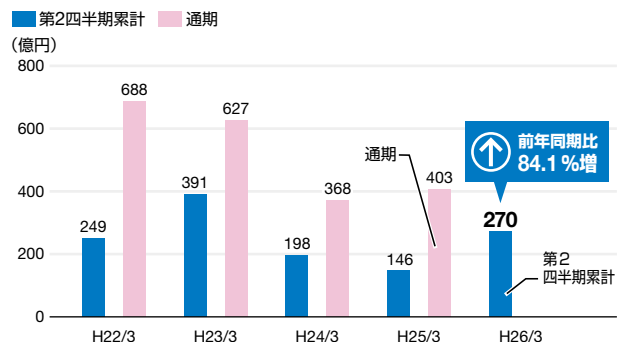
連結売上高



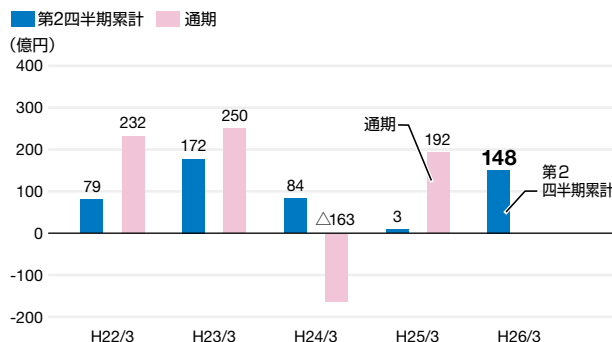
連結営業利益



連結経常利益



連結当期(四半期)純利益



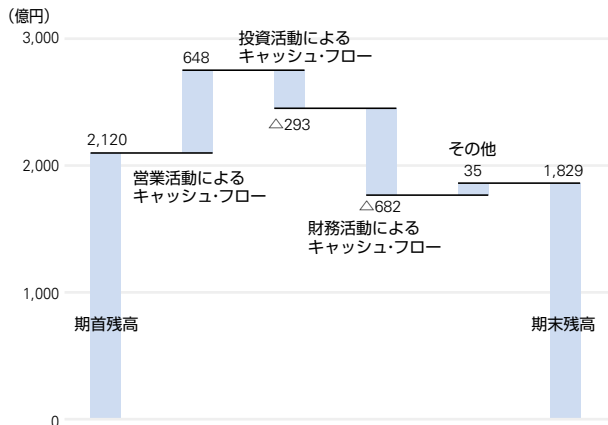
連結財務諸表 (平成26年3月期第2四半期)

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)		
科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
資産の部	1,536,109	1,578,976
流動資産	691,892	751,150
固定資産	844,217	827,825
負債の部	570,129	641,920
流動負債	389,632	457,784
固定負債	180,497	184,135
純資産の部	965,979	937,055
株主資本	891,709	887,193
その他の包括利益累計額	28,910	5,930
新株予約権	16	16
少数株主持分	45,343	43,915

連結キャッシュ・フロー(要約)

現金及び現金同等物の推移(平成25年4月1日から平成25年9月30日)



連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)		
科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
売上高	709,625	720,684
売上原価	574,853	596,330
販売費及び一般管理費	110,768	112,738
営業利益	24,003	11,614
営業外収益	6,887	8,341
営業外費用	3,869	5,282
経常利益	27,021	14,673
特別利益	927	235
特別損失	2,458	10,477
法人税等合計	9,645	4,146
少数株主損益調整前 四半期純利益	15,844	285
少数株主利益又は少数株主損失(△)	978	△111
四半期純利益	14,866	396

連結包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)		
科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
少数株主損益調整前 四半期純利益	15,844	285
その他の包括利益	23,782	△1,075
四半期包括利益	39,627	△790
(内訳) 親会社株主に係る四半期包括利益	37,846	△313
少数株主に係る四半期包括利益	1,781	△477

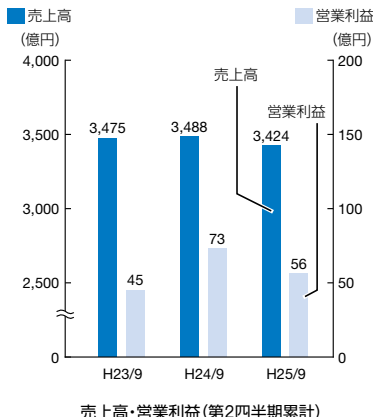
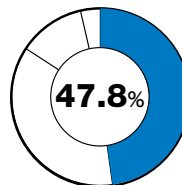
第2四半期決算のご報告 (平成25年4月1日から平成25年9月30日)

部門別営業報告

情報コミュニケーション部門 Information Communication

売上高	3,424億円 (前年同期比 1.8%減)
営業利益	56億円 (前年同期比23.1%減)

売上高構成比



出版印刷関連は、出版市場の低迷が続くなか、印刷から製本までを一貫して行う製造ラインなどの強みを活かして書籍は増加しましたが、雑誌の減少を補えず、前年を下回りました。商業印刷関連は、チラシ、パンフレット、カタログなどの印刷物が減少し、前年を下回りました。ビジネスフォーム関連は、少額投資非課税制度(NISA)の口座開設業務に関連したBPO(Business Process Outsourcing)事業の拡大などにより、パーソナルメール等のデータ入力・印刷・発送を行うIPS(Information Processing Services)が増加しました。ICカード関連も、金融機関向けや電子マネー向けが増加し、好調に推移しました。教育・出版流通事業は、リアルな書店、ネット書店、電子書籍の販売サービスを連携させたハイブリッド型総合書店「honto」の事業拡大と業務の効率化に努めたものの、不採算店舗の閉店もあり売上は前年を下回りました。

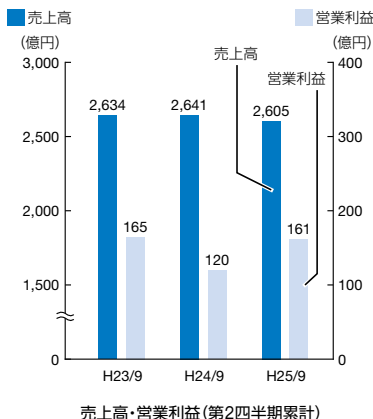
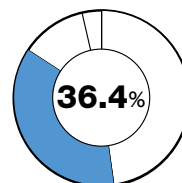


書籍・雑誌

生活・産業部門 Lifestyle and Industrial Supplies

売上高	2,605億円 (前年同期比 1.4%減)
営業利益	161億円 (前年同期比34.0%増)

売上高構成比



包装関連は、フィルムパッケージは堅調に推移したものの、ペットボトル用無菌充填システムの販売が減少し、前年を下回りました。住空間マテリアル関連は、国内の住宅着工戸数が増加するなど、需要が緩やかに回復しつつあり、DNP独自のEB(Electron Beam)コーティング技術を活かした環境配慮製品などが増加し、好調に推移しました。産業資材関連は、薄型ディスプレイ用反射防止フィルムやフォトプリンター用の昇華型熱転写記録材(カラーインクリボンと受像紙)などが増加し、前年を上回りました。



液晶ディスプレイ用反射防止フィルム

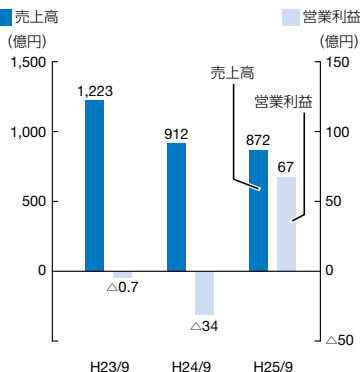
エレクトロニクス部門

Electronics

売上高	872億円 (前年同期比4.4%減)
営業利益	67億円 (前年同期は34億円の営業損失)

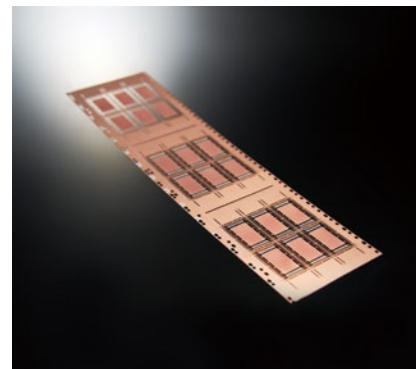
売上高構成比

12.2%



売上高・営業利益(第2四半期累計)

液晶カラーフィルターは、スマートフォンやタブレット端末向けの中小型品は堅調に推移しましたが、平成24年8月に堺工場の事業を譲渡した影響もあり、売上は前年を下回りました。電子デバイス関連は、フォトマスクは海外需要を取り込み、前年並みを確保しましたが、世界的なパソコン販売の低迷により、ハードディスク用サスペンションなどのエッチング製品が減少し、前年を下回りました。



リードフレーム

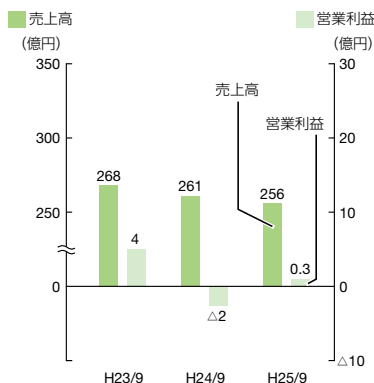
清涼飲料部門

Beverages

売上高	256億円 (前年同期比1.7%減)
営業利益	0.3億円 (前年同期は2億円の営業損失)

売上高構成比

3.6%



売上高・営業利益(第2四半期累計)

清涼飲料市場が低調に推移し、販売競争が激化する厳しい状況のなか、「コカ・コーラゼロ×EXILE『Zero Limit』プロモーション」等の販売促進企画を実施するなど、売上拡大に努めました。その結果、軽量ペットボトルを使ったミネラルウォーター「い・ろ・は・す」は増加しましたが、コーヒー飲料が減少しました。



清涼飲料

❖さらなる成長に向けた当期の主な取り組み (第2四半期まで)

●包装事業の海外生産拠点を増強

経済成長著しい東南アジアでは、日用品や食品などに使う高品質なパッケージに対する需要が伸びています。DNPは1972年からインドネシアでの事業を展開していますが、拡大するニーズに対応して今年5月にベトナムで包装工場が稼働を開始しました。2015年には包装分野の海外売上高を2012年実績の1.5倍の350億円程度に拡大する計画です。



ベトナム工場

●機能性素材や医薬品原薬などを製造する宇都宮工場が本格稼働

DNPグループの株式会社DNPファインケミカル宇都宮(株式会社DNPファインケミカル福島から社名変更)は2013年7月に、宇都宮工場が本格稼働を開始しました。優れた有機合成技術を活かして、医薬品原薬を生産するほか、電子材料などに使用する機能性素材も生産し、事業の拡大を目指します。



宇都宮工場

●9月20日に第1回無担保社債を償還

DNPは、設備投資資金に充当することを目的として2003年9月25日に発行した「第1回無担保社債」500億円を2013年9月20日に償還しました。これにより、社債残高は1,000億円となりました。

第2回無担保社債：2009年7月30日発行
500億円 2019年7月30日償還予定
第3回無担保社債：2011年3月3日発行
500億円 2020年12月18日償還予定

株式会社DNPロジスティクス

『幸せをはこぶ』を基本コンセプトに運輸事業を展開するDNPロジスティクスは、1958年の創業以来、DNPグループ各社の製品の「保管」から「物流加工」「輸送」までの物流業務を一貫して担ってきました。あらゆる地域にくまなく迅速に輸送できる全国ネットワークを構築し、また物流事業者として安全・安心なサービスを提供するため、継続的に輸送品質を高める取り組みを展開しています。車両にドライブレコーダーを設置し、運転状況を“見える化”するなど、日々安全性と効率性の向上に努めています。



運転席にドライブレコーダーを搭載した車両

現在、ビジネスを取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、物流のあり方も大きな変革を求められています。企業や生活者の複雑化する要望に応えるために、DNPロジスティクスは物流業務を基軸として戦略的にグループ各社との連携を図っています。企業や生活者に製品を直接届ける“最終ランナー”として、モノづくりや情報処理などの強みを組み合わせた効果的なソリューションを提供し、顧客企業とともに新しい挑戦を続けていきます。



高度なセキュリティ機能を備えた保管倉庫

会社概要

名称：株式会社DNPロジスティクス

所在地：東京都北区赤羽南2-20-7

設立：1958年

資本金：6億2,633万円



❖ DNPの強みを活かしたデジタルサイネージソリューション

DNPは、紙媒体とデジタルメディアを連動させたクロスメディア展開や各種システム開発等で培ったノウハウを活かして、デジタルサイネージ（電子看板）に注力しています。

デジタルサイネージは、時間やエリアに応じたネットワークによる効果的な情報配信機能や、タッチパネルや携帯端末を利用したインタラクティブなコミュニケーション機能などを有し、新たな情報メディアとして市場の拡大が期待されています。DNPは、2009年にデジタルサイネージ推進本部を発足させ、機器やシステムに留まらず、総合印刷会社ならではのトータルソリューションを提供しています。

12台の大型ディスプレイを連動させた「トールビジョン」を2009年に開発した後、2010年にはデジタルサイネージを活用した大学生向けプロモーション事業や、携帯端末と連動してクーポンを発行する「ア

クティビジョン」などを提供しています。その後も、屋外での使用に最適な高輝度モニターを低価格で提供するサービスや、デジタルサイネージと商品棚を一体化した販売什器「モニタナ」などを展開しています。用途に応じた最適なハードウェアとシステムの提供はもちろん、ユニバーサルデザインに配慮し、DNPオリジナル書体「秀英体」を活用したコンテンツの企画・開発などにも取り組んでいます。

今後、日本への外国人観光客の増加が見込まれ、デジタルサイネージの普及も加速すると予想されています。DNPは、国内のさまざまなロケーションで地図等を含むデジタルコンテンツを多言語で展開するとともに、海外では現地企業や日系企業の情報発信をサポートするなど、グローバルに取り組んでいきます。企業と生活者をつなぐ情報メディアとしての価値を高め、デジタルサイネージ事業を拡大していきます。

次世代コミュニケーションチャネルの構築により、生活者の利便性を追究

DNPは、デジタルサイネージを活用して街頭や駅構内、店舗やキャンパスなど、生活者の現在位置や属性に合わせて、最適な情報サービスを行っています。

たとえば、AR（拡張現実）技術とデジタルサイネージを組み合わせた「バーチャル試着システム」は、海外ではユニクロのサンフランシスコ店などで、国内では百貨店で初めて高島屋の「タカシマヤのカシミア コレクション 2013」で導入されました。利用者が対象商品を着て、鏡としても使える専用モニターの前に立って操作するだけで、モニターに映った衣類の色が変わります。一枚試着するだけで複数の色のチェックが可能になり、



バーチャル試着システム(協力:株式会社 高島屋)

気軽にカラーバリエーションを楽しむことができます。

また Will Smart 社と提携し、駅や空港、商業施設に向けて、周辺地図や観光案内を日本語・英語・韓国語・中国語で提供するサービスも展開しています。観光名所や名産品などの背景画像と合成した写真の撮影や、クーポン発行などの機能も搭載可能です。

ほかに、スマートフォンやタブレット端末で使えるネットワークサービス（オンライン）と店舗（オフライン）をつなぐ O2O（オンライン・トゥ・オフライン）ビジネスにデジタルサイネージを連動させるなど、新しい価値を提供していきます。



タッチパネル式デジタルサイネージ[Will Smart]

❖ [2013年7月19日発表] 非接触型IC媒体『Smart-Jacket®』の高性能・低価格な新製品を開発

DNPは、従来よりも面積比で約30%小型化し、ポリウレタンからABS樹脂へのケース素材の変更によって耐久性を向上させた『Smart-Jacket(スマートジャケット)』の新製品を発売しました。材料と製造過程を見直すことで約3割のコストダウンも実現しました。電子マネー、非接触クレジット、IC会員証などの用途で販売していきます。

DNPは、電子マネーなどに利用されているFeliCa機能を搭載し、キーホルダーやストラップなど、カード以外の形状で提供するIC媒体『Smart-Jacket』を

2010年に開発しました。携帯性が高く、キャラクターやブランドロゴを活かしたデザインや形状に加工できる製品で、高齢者や子供、主婦向けなどに展開しています。



❖ [2013年7月25日発表] 電子出版の新たな事業モデル構築を目指す『文力(ぶんりき)』ノベルスを創刊

DNPは株式会社宝島ワンダーネットと共同で、電子書籍の書き下ろし小説レーベル『文力』ノベルス(<http://bunriki.jp/>)を立ち上げました。

書き下ろし小説を週1回の連載として電子書籍で配信し、連載終了後に全話をまとめた単行本を電子版と紙版の書籍で刊行します。連載作品と単行本は、DNPが運営するハイブリッド型総合書店『honto(ホント)』([\[honto.jp/\]\(http://honto.jp/\)\)のほか、アマゾンや紀伊國屋書店Kinoppy、ReaderStoreなどの電子書店で購入できます。これまでの作品は、「ニワトリ★スター」\(たなか雄一狼著\)、「サムライ伝」\(浅倉卓弥著\)、「フロア」\(根本起男著\)があります。](http://</p></div><div data-bbox=)

今後、専用のFacebookページの開設、執筆中の作家が参加するイベントの開催など、読者と作家とのコミュニケーションの場も随時提供していきます。



ニワトリ★スター



サムライ伝



フロア

❏ [2013年9月26日発表]世界的に評価の高いSRI指標「DJSI World」の構成銘柄に9年連続で選定



DNPは、世界的な社会的責任投資(SRI)指標「Dow Jones Sustainability Indices (DJSI World)」の2013年度の構成銘柄に選定されました。これで9年連続となります。

DJSI Worldは、経済・環境・社会の側面から世界

各国の大手企業約2,500社を産業分野ごとに評価し、持続可能性に優れた企業を選定するもので、各国の投資信託・運用機関などが使用しています。今年度は全世界で333社が選ばれ、そのうち日本企業はわずか21社でした。

DNPはこのほか、「FTSE4Good Global Index」「ETHIBEL Investment Register」「モーニングスター社会的責任投資株価指数」など、投資家に高く評価されているSRI指標の対象銘柄にも選定されています。

❏ [2013年10月1日発表]ブランドに合わせたカラフルなデザインができるホログラムを開発

見る角度によって色や模様に変化するホログラムは、高い製造技術が必要で、偽造が難しく、セキュリティ効果が高いため、商品券やクレジットカード、ブランド品などの偽造防止に幅広く利用されています。近年は、ブランドイメージやパッケージのデザイン性の向上などにホログラムを活用したいという要望も増えています。

DNPはこれらのニーズに対応するため、リップマンホログラム(写真上)の背景の色と、エンボスホログラム(写真下)の表面の色を、企業のイメージカラーや製品の配色などに合わせて自由に選択できるようにしました。これまで無機質なデザインが多かったホログラムに、豊富なカラーバリエーションを使った意匠性の高いデザインが可能になります。DNPは、イベントの入場券、商品タグやパッケージなどにカラフルなホログラムの用途を広げていきます。



リップマンホログラム



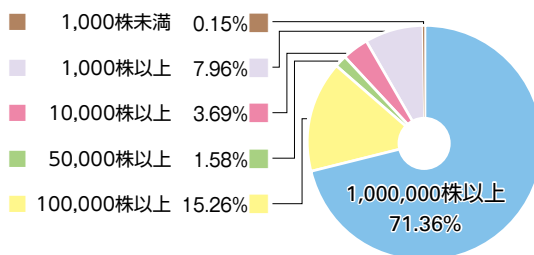
エンボスホログラム

株式の状況

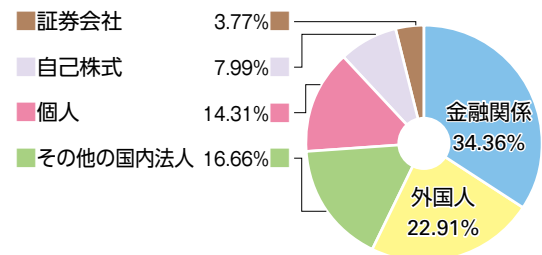
発行済株式総数
700,480,693株
(自己株式
55,983,630株を含む)

株主数
35,573人

所有数別分布状況



所有者別分布状況



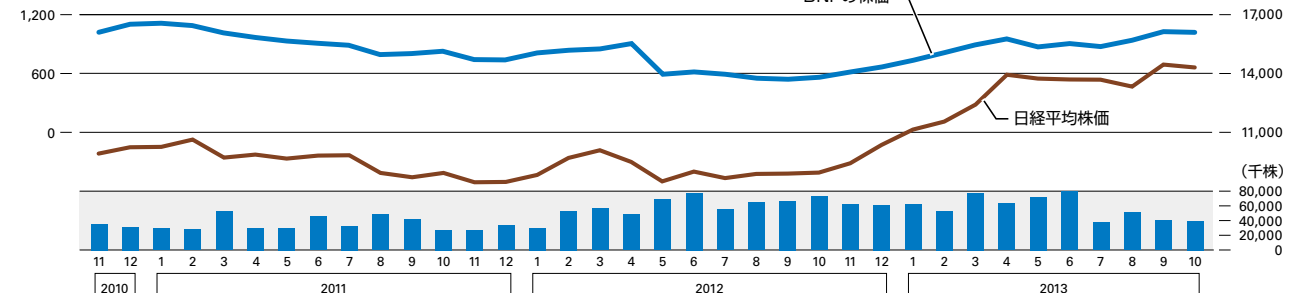
大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	40,595	6.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	32,267	5.01
第一生命保険株式会社	30,882	4.79
株式会社みずほ銀行	21,913	3.40
自社従業員持株会	15,465	2.40
ザ バンク オブ ニューヨーク トリーティەر ジャスデック アカウント	10,618	1.65
日本生命保険相互会社	10,116	1.57
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリ バンク フォー デポジタリ レシート ホルダーズ	8,831	1.37
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	8,251	1.28
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	6,658	1.03

(注) 1. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数(644,497,063株)を基準に算出しております。
2. 自己株式は、上記大株主からは除外しております。

株価 / 出来高の推移

DNPの株価(円)



会社概要

商号

大日本印刷株式会社

英文社名

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

本社所在地および連絡先

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 電話 03 (3266) 2111 総合案内
 URL <http://www.dnp.co.jp/>

創業

明治9年(1876年)10月9日

設立年月日

明治27年(1894年)1月19日

資本金

1,144億6,476万円

CONTENTS

株主の皆様へ	2
第2四半期決算のご報告	4
DNPグループ紹介②	9
“フォーカスDNP”シリーズ 【第16回:デジタルサイネージ】	10
ピックアップニュース	12
株式情報	14
会社情報	15



表紙：DNP柏データセンター

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。

※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。(当社のウェブサイト http://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 一般口座(証券会社の口座)にある株式
株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
- 特別口座(みずほ信託銀行の口座)にある株式
(お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
(お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ証券 本店、全国各支店および営業所
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ銀行 本店および全国各支店
(取次所) みずほ証券 本店、全国各支店および営業所
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

※ 単元未満株式に関するお知らせ

1,000株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(1,000株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いしております。

- DNP Report に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 広報室 〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
TEL: 03-3266-2111 (総合案内)



グリーン電力を導入しました
(年間115万kWh)。この報告書を印刷する際の電力(1,800kWh)は、自然エネルギーでまかなわれています。



CO₂の「見える化」
カーボンフットプリント
<http://www.cfp-japan.jp>
登録番号:CR-BS03-13015



この印刷物は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)が認証したCUDマネジメントシステムに則り、株式会社DNPメディアアクリエイトが制作しています。色覚の個人差を問わず、より多くの方に見やすく配慮しています。